

乃木大将、鏡野をゆく

先日、NHKのドラマ『坂の上の雲』が結末を迎えました。日本が近代国家として歩んでゆく明治という時代を生きた人々のドラマに感銘を受けた方も多いでしょう。

このドラマの主要人物の一人、陸軍大将・乃木希典は、日露戦争（一九〇四―〇五）で第三軍司令官として旅順攻略戦や奉天会戦などを指揮し、「乃木大将」といえば戦前では国民的英雄であった人物でした。この乃木大将が現在の鏡野町域を訪れたのは明治四十二年（一九〇九）のことです。

乃木大将は妻の静子と従者を連れ、八月十四日に津山に入りました。当時の『山陽新報』によると、中国鉄道で津山に到着した乃木大将は津山城跡に登り、市内のあけぼの旅館に



写真1 乃木希典

宿泊、翌十五日は早朝に出発し作楽神社を参拝、竹田街道を経て伯耆倉吉に向け出発した、とあります。当時、西竹田には梅田屋という旅館と人力車の停車場があり、そこで乃木大将が泊まったという言い伝えがありますが、十五日には奥津温泉の増屋という旅館に宿泊していることから、梅田屋では人力車の乗り換えを兼ねた休息だったと思われます。

一行は寺元―竹田―小座―塚谷を通過し、鳥越峠から市場―久田下原に至り久田上原の旅館で休憩しました。静子夫人と従者は縁側に腰かけていましたが、乃木大将は沓脱石に腰かけ、吉井川の風景を眺めながら茶を喫したといえます。この時、乃木大将は日露戦争で戦死した長男・勝典の戦友の墓参のために久田村を訪れたという言い伝えもありますが、久田村出身の日露戦争で戦死した者の中には、勝典と同じ軍に属していた者や軍歴を持つ者もなく、また当日に墓参をしたという記録もないため、真偽は定かではありません。

その後泉村から羽出村を通ってウダ坂を越えて奥津温泉に向かったのですが、昭和6年（一九三二）、名



写真2 乃木大将一行が通った上齋原宿場町（現在）

勝奥津溪を国指定文化財に申請するため、文部大臣に提出した申請書には「乃木將軍等来遊され賞讃措かさる処であります」と書かれてありますので、ウダ坂を越えた後に大釣あたりの溪谷美を觀賞したのでしょうか。

奥津で宿泊した一行は、上齋原の玉沢屋旅館で休息し、人形峠を越え鳥取へ向かいました。

上齋原でも乃木大将らが縁側に腰かけて茶菓の接待を受けている目撃談が残されています。

鳥取へ向かった乃木大将は、赤碕町（現琴浦町）の牧場で愛馬「寿号」と再会しました。

「寿号」は、旅順攻略の際に停戦条約が締結された水師営の会見で、降伏したロシア軍のステッセル將軍



写真3 水師営会見所（旅順）

から贈られた馬で、ステッセル將軍の名前の頭をとって「すごう」と名付けたのです。後に寿号は赤碕町で馬匹改良に取り組み佐伯友文氏に種馬として贈られており、佐伯牧場で愛馬との再会を果たした乃木大将は、鳥根県の乃木村（現松江市）にある祖先の墓参をし、山陰に数日滞在した後、八月二十日に帰京しました。

多忙であった乃木大将にとって、愛馬の再会と墓参を兼ねたこの旅は、束の間の心休まるひとときで、道中の自然やふれあう人々も一行の心を癒す一助となったことでしょう。

参考資料：『山陽新報』、『鏡野町史』、『奥津町史』、『上齋原村史』他、宗森英之先生・片田知宏氏の教示

お問い合わせ先

生涯学習課 日下

電話（0868）54-7733